

# 矢立峠の国有林

秋田・青森県境に位置する矢立峠は、旧羽州街道など津軽へ通じる交通の要衝で、この付近一帯は江戸時代から天然秋田杉の産地としても有名でしたが、戦後の復興用材などの伐採により、国道7号線沿いの一部を残すのみとなりました。

昭和40年に国道が改修されたのを機に、天然秋田杉の保存と国民の保健休養のため昭和43年に約10haを「矢立風致保護林」に指定、その後昭和47年にはレクリエーションの森「矢立峠風景林」と名称が変わり、昭和54年に区域を約25haに拡大して「保健保安林」にも指定、さらに平成14年には野生動植物の移動経路や生息場所を確保するため「白神・八甲田緑の回廊」に組み入れられています。

このほかこの区域は、モデル的な健康保養の場「やすらぎの森」（平成9年）、「後世に残すべき文化的景観」（平成15年）にも選定されています。

このように矢立峠の国有林は、天然秋田杉を保護するとともに、自然散策や峠にまつわる歴史の探訪、周辺の温泉入浴など保健休養の場として利用されています。

また歩道や看板は、大館市をはじめ、地元の歴史研究会や企業のボランティアにより整備されています。

## ○森林の記録

- ・戦前は「矢立保護林」と称し、ha当たり蓄積700~1,000m<sup>3</sup>の天然スギの美林を誇っていた。
- ・昭和59年には、ha当たり蓄積440m<sup>3</sup>、直径60~160cm、林齢約200年
- ・平成3年9月28日の台風19号による被害、天然杉243本、1,753m<sup>3</sup>
- ・平成6年には、ha当たり蓄積約400m<sup>3</sup>、樹高40~45m、となっている。

## ○歴史の道「矢立遊歩道」

旧羽州街道などを歩くと、矢立峠にまつわる歴史を訪ねることができます。

- ・880(天慶4) 「大楯(大館)の城主公家(杵江)が碓関の橘吉明を討ち、大杉の根元に弓一張り、矢一双立て、これを納め置く」 (①矢立杉跡)
- ・1785(天明5) 江戸時代の旅行家で博物学者の菅江真澄「杉一本をあたり柵して囲いたるは津軽、秋田のさかひのしるしなり」
- ・1802(享和2) 伊能忠敬測量隊が通過 (②記念標)
- ・1821(文政4) 南部藩士相馬大作による津軽公襲撃事件
- ・1852(嘉永5) 長州藩士吉田松陰が東北を遊歴 (③漢詩碑)
- ・1877(明治10) 旧羽州街道(明治新道)開通
- ・1878(明治11) 英婦人旅行家イザベラバードが矢立峠を通過「日本奥地紀行」(④記念標)
- ・1881(明治14) 明治天皇行幸、矢立峠越え (⑤行幸碑跡)
- ・1889(明治22) 青森秋田乗合馬車開通 (⑥記念標)

## 【お問合せ】

米代東部森林管理署

TEL 0186-50-6130 (H25.4.1)

# 歴史の道「矢立峠遊歩道」

- ① 旧国境・矢立杉跡
- ② 伊能忠敬測量隊記念標
- ③ 吉田松陰漢詩碑
- ④ イサベラバード記念標
- ⑤ 明治天皇行幸碑跡
- ⑥ 乗合馬車開通記念標
- 🏠 東屋

